

令和2年度第3回尼崎市文化財保護審議会会議録要旨

1 日 時

令和3年3月10日(水) 午前10時00分～12時00分

2 場 所

尼崎市立歴史博物館3階講座室

3 出席委員

委 員	馬 田 綾 子
委 員	大 場 修
委 員	伊 達 仁 美
委 員	川 口 宏 海
委 員	長 谷 洋 一

4 出席した事務局職員

教育長	松 本 眞
社会教育部長	安 田 博 之
歴史博物館長	伊 元 俊 幸
歴史博物館課長補佐	丸 井 直 子
歴史博物館文化財担当係長	桃 谷 和 則
歴史博物館文化財担当学芸員	高 梨 政 大
歴史博物館文化財担当学芸員	井 上 亮
歴史博物館文化財担当学芸員	楞 野 一 裕

5 開 会

司会進行 伊元館長

6 挨拶

松本教育長

7 議 事 等

議事1「令和2年度尼崎市指定文化財候補物件の答申について」を議題とし、「武庫庄遺跡出土大型掘立柱建物柱根」、「豊臣秀吉朱印状(堀田三左衛門尉宛)」の答申文案について、事務局から説明した。

① 武庫庄遺跡出土大型掘立柱建物柱根

- ・建物の柱の実年代が年輪年代で判明しており、その建物は当時日本最大級で尼崎の弥生時代中期を考える上でも重要である。
- ・辺材部が一部残存していたことが重要である。辺材が残存していない木材については、年輪が何層分(何年分)腐朽しているか判断できない。
- ・弥生時代の年代が遡るのではなく、長い弥生時代の中の中期が今までの時代観より遡る。考古学では基本的に相対年代であるものより新しい・古いという年代観であるが、この柱根は実質の年代がピンポイントでこの時代であるということが分かる資料である。紀元前1世紀に始まると考えられていた実年代観から遡る、考え方のニュアンスとして、「観」を入れるとよいと思われる。
- ・大型掘立柱建物は1間(8.5m)×4間以上(10.0m)以上とする方が分かり

やすい。

- ・伐採年は、ほぼ同じ頃であるが、年輪年代は計測できた年輪の中の計測できた最も古い年代を表しており、失われた年輪があり、1号柱根であれば、紀元前487年までしか計測が出来なかった。表の年輪年代は計測できた最大、最古が紀元前487年であった。それだけを見ると200年ほどの開きがあるように思えるので、それが分かる一文があればよい。
- ・答申文の法量等の表に辺材、伐採年の項目欄を追加し、3号柱根に辺材が残ることと、伐採年がわかるようにした。また、大型掘立柱建物は梁行1間(8.5m)、「1間」を入れ、桁行4間以上(10.0m以上)と「4間」を入れた。紀元前1世紀に始まると考えられていた実年代観と、実年代の後ろに「観」を入れた。

② 豊臣秀吉朱印状（堀田三左衛門尉宛）

- ・前回との違いとしては、形式を整えている。法量も記載があるので、豊臣秀吉発給文書（折紙）の法量表と比べると法量による時期の位置づけも分かりやすい。指定文化財とすべき理由も別にして挙げてあり、それも分かりやすい。尼崎関係の豊臣秀吉発給文書表にある通り、尼崎市に所在する尼崎関係の豊臣秀吉発給文書で指定を受けていないのは、本文書だけであり、尼崎市内の地名もはっきり出ており、尼崎市指定文化財にふさわしいと考えられる。
- ・西宮市所蔵の「慶長十年撰津国絵図」には「畠田村」とあるのが「富田村」の誤記であるというのは、絵図の場所から分かる。
- ・赤見氏について、同時代の文献資料はほとんどないが、ここまで分かった。
- ・富田村があった場所は、猪名川沿いで、東園田遺跡という弥生時代からの遺跡がある。
- ・豊臣期の尼崎地域の蔵入地の範囲はわかっていないが、江戸時代の所領配置を考え合わせると、富田村があった園田地区は同村のように豊臣氏の蔵入地以外の領地が多くあった可能性が考えられる。
- ・富田村は江戸時代には相給で領主が2人いたが、このうち大部の石高は堀田氏への給地の石高と近似しており、何等かの関係があるのでないかとみられる。

「武庫庄遺跡出土大型掘立柱建物柱根」、「豊臣秀吉朱印状（堀田三左衛門尉宛）」の答申文について諮ったところ、異議がなく、全委員の了承が得られ、答申を提出することとなった。

8 報告等

報告1「最近の文化財保護行政について」

(1) 「ユニチカ記念館保存問題について」

- ・令和3年3月27日に「ユニチカ記念館の保存活用を考える」というシンポジウムを開催することを報告。

(2) 「国登録有形文化財旧大庄村役場の整備について」

- ・前年度から報告している耐震補強工事を含めた整備工事について、来年度予算計上しており、予算が可決されれば来年度一年かけて整備に入る。外観を触らずに耐震補強が可能な案となったことを報告する。

(3) 「令和3年度文化財関係予算案について」

- ・令和3年度文化財関係予算案について報告し、歴史博物館本館の維持管理費の大部分が光熱費であり、昨年度は半年の開館であったが、一年となるのでその経費が増えていることを報告。

9 その他

- ・日本遺産事業について質問があり、現在ツールとして、リーフレット、のぼり等作っている。今後、ツーリズムに繋がるような、ガイドの育成用のテキスト等作成中で、具体的なイベントについては実施できていないことを説明。

答申書の提出を受け、最後に安田部長が挨拶を行い、審議を終了した。

以上